

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090400211		
法人名	有限会社 ワンダー		
事業所名	グループホーム おむすび苑		
所在地	〒802-0032 福岡県北九州市小倉北区赤坂1丁目7番18号 Tel 093-533-0633		
自己評価作成日	令和03年01月24日	評価結果確定日	令和03年03月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりの人として、尊厳を大切に寄り添う支援 ・あきらめず思い込まない支援・感謝しもてなす支援 ・ひとりひとりに心を添える支援

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「おむすび苑」は、認知症高齢者が住み慣れた地域の中で、馴染みの職員に囲まれた家庭的な環境の下、最期まで安心して暮らすことのできる場所として9年前に開設した、小規模多機能ホーム併設の定員18名のグループホームである。コロナ禍以前は、「おむすびサロン」「おむすび公園」を地域に開放して、少しずつ地域との関係を積み重ねてきていたが、現在は自粛している。そんな中でも、おむすび公園の畑での芋掘りや餅つき等、少しでも利用者を楽しんでもらおうと、管理者を中心に職員の努力が続いている。提携医との密な連携に加え、同一建物内に訪問看護ステーションを開設して医療面での強化が図られ、看取りも行っている。事務職員、介護職員、看護職員が、それぞれの持てる力を発揮しながら、利用者、家族の笑顔のために一つにまとまり、「ここは日本一の施設」と、家族の信頼も厚い、グループホーム「おむすび苑」である。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和03年02月24日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11.12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	おおむね共有できている	法人理念や基本方針、「おむすび苑8ヶ条」を各フロアの職員が見やすい場所に掲示し、毎週月曜日の朝礼時に唱和して、職員一人ひとりが理念の意義を理解して共有に努めている。職員は、利用者の尊厳を大切に、一人ひとりに心を添える支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍の中で交流が難しい	コロナ禍以前は、町内の行事や活動に出来るだけ参加し、おむすび公園で同一法人保育園の子どもたちと焼き芋やバーベキューを楽しむ等、少しずつ交流を広げていたが、現在は自粛している。回覧板を回したり受け取ったり、毎週木曜日のゴミステーションの清掃に参加する等、今できることに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在コロナ禍の中で難しい		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ禍の中で開催が難しい	運営推進会議は、併設小規模多機能ホームと合同で、2ヶ月毎に開催し、利用状況や行事、研修計画、事故等について報告してきたが、現在は新型コロナウイルス感染症対策のため、書面で報告している。参加委員から出された意見や要望は検討し、サービスの向上に反映させている。	書面での会議として成立させるため、議事録に参加委員(議事録の送付先)を記載し、報告に対する質問や意見を収集して次回の議事録に記載し、書面会議の形を整えていくことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困りごとや尋ねごとは積極的に連絡している	管理者は行政窓口にも、空き状況や事故等を報告し、疑問点や困難事例等の相談を行い、連携を図っている。運営推進会議開催時には(現在は書面で報告)、地域包括支援センター職員の参加がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対にしないし委員会を通してケアの統一をしている	身体拘束はしていない。身体拘束廃止委員会を中心に、虐待や身体拘束について研修を開催して職員への周知を図り、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、日常業務の中で、接遇面で気になる点があれば、その都度、職員間でしっかりと話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を開催し職員一同防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアル等で理解している	外部や内部の研修を通して、管理者は権利擁護に関する制度を理解して、パンフレットや資料を基に、職員へ周知している。必要時には、利用者、家族に、制度についての説明を行い、それらを活用できるよう支援している。現在、制度を活用している利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明をしている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見の反映は職員なのかで情報共有している	職員は、ホームでの暮らしの中で、利用者の意見や要望を把握している。現在は、家族の面会も制限されているが、電話やメール、手紙で家族と密にコミュニケーションを取る中で、意見や要望を聴き取り、出された内容をホームの運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談を設け、施設長会議等で報告している	職員全体会議、フロア毎の会議、介護職員のみ、看護職員のみ、ケアマネージャーと計画作成担当者の会議等、小さなミーティングが多くあり、職員が意見を表せる機会が多い。直接管理者への相談もあり、思いを聴く中で、職員からの発信を出来るだけ反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長会議で報告し把握され、管理者に指示されている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集や採用項目は、柔軟な対応をおこなっている	職員の募集、採用にあたっては、年齢や性別、資格や経験の制限はなく、働く意欲や人柄を優先している。採用後は、職員間で常に互いを思い合うことの大切さを説明し、職員間で助け合いながら、それぞれの特技や能力を活かせる環境作りに取り組んでいる。また、年1回の昇給、マイナスのない賞与の査定、有休、夏冬のリフレッシュ休暇の取得も奨励している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	取り組んでいる	利用者の人権を守る介護の在り方を、職員全体会議で話し合い、意識の統一を図っている。法人理念、基本理念、おむすび苑の理念を常に意識して、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修が難しいが内部研修を行っている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在コロナ禍で難しい		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分に努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	十分に築けている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	十分に築けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナ禍で支援が十分にできていない	笑顔で挨拶を職員間で徹底し、面会に訪れやすい雰囲気作りを心掛け、家族や親戚、友人、知人の面会を歓迎している。(現在はコロナ禍で、面会は制限がある)以前は馴染みの美容院へ出かけていたが、コロナ禍の現在は、天気の良い日におむすび公園にて青空美容室を実施している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内での個々の利用者に合わせて支援を行っている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡や問い合わせがあるときは、相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケア会議を開催し意向の把握を行っている	職員は共に過ごす日々の中で、利用者の思いや意向を把握するよう努め、思いの実現に向けて支援している。意思を表すことが困難な利用者には、職員が利用者に寄り添い、表情や行動から思いを汲み取り、常に利用者主体である事を意識しながら、ホームで利用者が安心して暮らせるように支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握し十分に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握し十分に努めている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍で外直接の話し合はできていないが、電話等で話介護計画を作成している	ケアマネージャーや計画作成担当者が、電話で家族の意見や要望、心配な事を聴き取り、カンファレンスで検討し、利用者本位の介護計画を半年毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有し実践や見直しができている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	十分に組み組んでいる		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で協働できていない		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	十分に支援できている	契約時に利用者や家族の希望を尊重して主治医を決定し、かかりつけ医の受診は家族対応でお願いしている。現在は利用者全員が、協力医療機関が主治医であり、定期的な往診と緊急時の指示を受け、看護師、介護職員が連携して、24時間安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	施設看護師や訪問看護ステーションと連携し受診に繋げている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	十分に医療との連携ができている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方は十分に家族様や主治医と話し合い方針を決め最期までお支えできるよう取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けた方針について、利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化に伴い、家族と主治医、関係者で話し合い、方針を確認し、希望があり条件が整えば看取りの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員とまではいかないが、常に意識ミーティング等に事例を踏まえ備えている		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の施設内訓練を実施している	非常災害を想定した避難訓練を年2回、併設事業所と合同で実施し、2階と3階の利用者18名を、安全に一時避難場所に誘導し、消防車の救出を待つ体制を整えている。また、「火を出さない」事を申し合わせ、毎日担当者が安全点検を行っている。災害時に備え、非常食も備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳とプライバシーの保護ができています	利用者のプライバシーが守られるように、職員一人ひとりが尊敬の念を持って利用者に接し、プライドや羞恥心に配慮した声掛けや対応を心掛け、新人研修でしっかりと意識づけを行っている。また、利用者の個人情報や職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し情報漏洩防止の徹底を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の支援はできている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全てではないが添えるよう支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は髭剃りや衣服、女性は衣服やお化粧、髪型の支援をしている		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	全ての方は難しく、個々に合わせたことでの支援をおこなっている	法人厨房から栄養バランスの良い美味しい料理を配食し、彩り良く盛り付け、炊飯や汁物の温めは各フロアで行なっている。食事の準備から片付けまで、利用者の能力に合わせて楽しみながら手伝ってもらっている。また、炊飯器を使って芋ケーキを作る等、おやつ作りにも取り組み、利用者の「食」を豊かにする支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の把握と、促しや、食事形態も工夫している。栄養補助食や大好きなお芋・佃煮の差し入れも支援できている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立に方、介助が必要な方の支援ができています。家族様からの要望で歯間ブラシや口腔液のお預かりで対応している		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方は声掛けを行い、全介助の方は排尿パターンを把握しトイレ誘導の支援をしている	利用者が重度化してもトイレでの排泄を基本とし、職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、タイミング良く声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間帯は2時間毎の巡視を行い、トイレ誘導、パット交換、オムツ交換等、それぞれに応じて対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を第一に考え、マッサージや水分調整を行い、それでも難しいときは主治医に相談し排便コントロールをおこなっている。家族さんから手作りヨーグルトをお預かりし排便コントロールもおこなっている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員を十分に配置し安全かつ気持ちよく入浴していただき清潔保持ができています。入浴時間はゆったり取れている。	入浴は、利用者の希望や体調を見ながら週2回を基本としているが、便失禁があった場合などはその都度シャワー浴を行なっている。毎週木曜日の午後、介護士2名と訪問看護師1名で1階の特浴を使って、重度の利用者の入浴を行う体制が整っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の臥床時間や夜間の臥床時間は十分に確保できている。ホールでのソファー臥床、ご自身のリクライニングチェアを利用いただいている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より指導を受け、内服管理を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケやおやつレク、バーベキューなどを企画し役割分担をし、楽しみごとの支援ができています		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍での外出は自粛中で、苑内にあるおむすび公園に、お散歩に出かけています	コロナ禍以前は、天候や利用者の体調を見ながら、花見や買い物、ドライブ等に出かけ気分転換に取り組んできた。おむすびの形をした敷地の中のおむすび公園を整備し、花や芋を植えベンチを置いて、外気浴を楽しむことが出来る環境を整え利用者の気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在コロナ禍で外出が自粛中です		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やテレビ電話での交流、年賀状での支援ができています		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に、フロア内には季節感があらわれる環境になっている	三角形の敷地を上手に活かした建物は、清潔で清掃が行き届き、温度や湿度、照明や音、臭い等にも配慮され、明るく、アットホームな雰囲気のある共用空間である。地域交流室おむすびルームを設置し、おむすび公園を整備して、地域の方や保育園児、利用者の交流の場になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	場所を固定せず、各々好きな場所で過ごしていただく		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入居時に使い慣れたものを持ち込まれており心地よい空間が保っている	入居前に利用者や家族と話し合い、仏壇やリクライニングチェア、家族の写真等、思い出のある物を持ち込んでもらい、利用者が安心して過ごせるように家族と相談しながら居室を整えている。また、利用者の状態の変化に合わせて、床ベッドに替えたり、筆筒を外したりして、安全に過ごせる環境作りに努めている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	手すりの工夫や蛍光シールなどを目印に個々の力を活かした環境になっている		